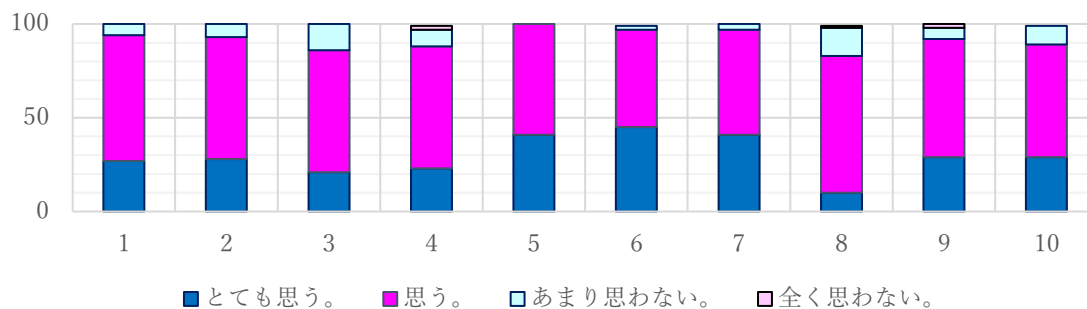


●校訓到達度評価（生徒・保護者）【肯定的回答の割合】

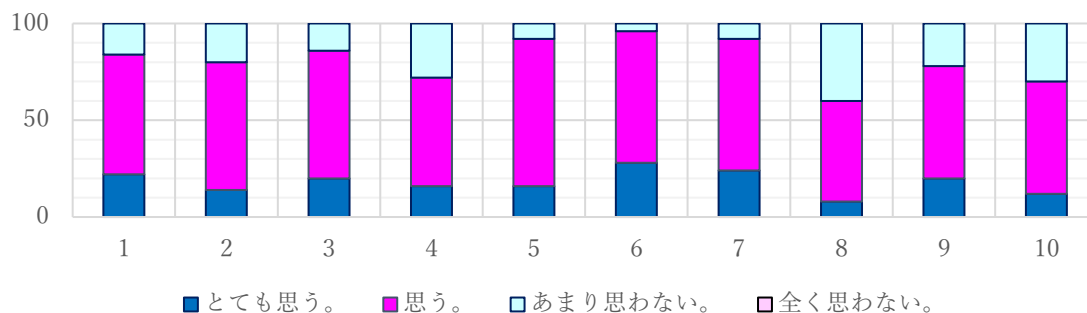
※4段階評価の「とても思う。」「思う。」と回答した人の割合(単位%)の結果です。

番号	質問内容	生徒回答【%】	保護者回答【%】
1	規律ある生活を送ることができた。	94	84
2	自分の考えをしっかりと表現することができた。	93	80
3	自分に合った目標を設定し、自分の役割を果たすことができた。	86	86
4	自分に合った目標を設定し、学力定着のために計画的に努力できた。	88	72
5	他の違った意見や考え方を尊重できた。	100	92
6	思いやりをもって調整できた。	97	96
7	他と協力し、安心して思う存分に活動することができた。	98	92
8	伝統を活かし、あるいは、前例にとらわれることなく、工夫できた。	83	<u>60</u>
9	結果をしっかりと受け止め、その成果を明らかにできた。	92	78
10	今後の活動の改善策を整理できた。	89	70

校訓到達度チェック（生徒）



校訓到達度チェック（保護者）



●校訓到達度評価（生徒・保護者）分析

- ・校訓『自律』に関する
「規律ある生活を送ることができた。」「自分の考えをしっかりと表現することができた。」については、90%以上の生徒が肯定的な評価であった。
【成果】言葉遣い、あいさつ、時間や提出期限などを、さまざまな点が考えられるが、全体的に概ね良好であり、教師からの指導が徹底し、支援が効果的になる要因の一つであると考えている。生徒自身も自覚していると思われる。
=課題=
・規律及び目標をしっかりと持って活動や学習する点においては、個人差が大きいように感じます。**個に応じた指導**が大切であると感じている。
・「目標をしっかりと持って活動あるいは学習する。」に関する項目の生徒評価では、10%以上の生徒が否定的な評価（活動：12%・学習：11%）であり、**目標を持たせること**の大切さが課題である。
・保護者評価でも活動14%、学習28%の方が否定形な評価であった。
- ・校訓『共生』に関する
「他の違った意見や考え方を尊重できた。」「思いやりをもって調整できた。」「他と協力し、安心して思う存分に活動することができた。」については、生徒・保護者ともに90%以上の肯定的な評価であった。
【成果】学校生活の中での学級活動・生徒会活動・専門委員会（係活動）・部活動ばかりでなく各教科でのペア学習・グループ学習などの体験を通しての成果だと考えている。
=課題=
・生徒指導上の友人関係でのトラブルが、全くない訳ではない。トラブルの早期発見・早期対処の姿勢は継続する必要がある。
・迎合ではなく、互いの意見を議論し、**常に向上心を持って努力すること**が不可欠であると考えている。
- ・校訓『創造』に関する
生徒評価ではすべて80%以上で特に、「結果をしっかりと受け止め、その成果を明らかにできた。」92%の評価であった。
【成果】“新たな一面の”という言葉が学校目標の前段に掲げ、結果の重要性を強調してきました。その結果、生徒自身『成果』に目を向けるようになった。
=課題=
・「伝統を活かし、あるいは、前例にとらわれることなく、工夫できた。」生徒16%・保護者40%、「今後の活動の改善策を整理できた。」生徒10%・保護者30%と否定的な評価で大きな課題である。
・踏襲ではなく、**自分の考えのもとに努力すること**の重要性が大切であると考えている。

=来年度の学校運営へ=

●自律「主体性の育成」

- ・規律ある生活を送ることができた。（レベル5のあいさつ・人前力）
- ・自分にとって何を学ぶべきかしっかりと目標を設定し、学力を身につけることができた。（三川中スタンダード）
- ・組織の中で、自分にとって何をすべきかしっかりと目標を設定し、実行することができた。（自己有用感）
- ◎身につけた学力・実践した成果に対して厳しく評価し、自信を持つことができた。（自己指導力）

●共生「多様性の育成」

- ・他の違った意見や考え方を明確にできた。（尊重）
- ◎思いやりをもって優しく調整できた（調整力）**※みんな楽しく！R5年度**
- ・他と協力し、計画通りに思う存分に活動することができた。（達成感）

●創造「発達性の育成」

- ・伝統（前例）を理解し、計画を立案することができた。（計画性）
- ◎改善点を明確にし、工夫して取り組むことができた。（向上性）
- ・今後の活動の改善策を明確にできた。（新たな目標）**※新たな一面の！R6年度**

※自己評価能力の向上は不可欠である。